

「河川整備計画策定への意見書」の取りまとめに向けご多忙の事と存じます。歴史に残る「意見書」が出されますことを期待しています。

私達、「伊賀の水と緑を考える会」は昨年12月から今日まで川上ダム問題について伊賀6市町村自治体、木津川上流河川事務所、水資源開発機構川上ダム建設所、三重県企業庁、伊賀水道建設事務所等と意見交換、資料提供をいただきその内容についての学習、討議を行い、又、奈良県川上村大滝ダム白屋地区の現地にも何度も出かけて実態を見学、川上ダム中止を求める意見書や川上ダム建設の根拠とされている昭和28年台風13号、過去最大の浸水被害の原因を明らかにし、岩倉峡狭窄部バイパストンネル案を含む代替案意見書を提出しました。

この間、淀川水系流域委員会や淀川部会を8回傍聴し、伊賀地域で開催された「川上ダム意見交換会」「木津川・宇陀川への思い意見交流会」にも参加、河川整備計画策定の成り行きを見守り、発言もしてきました。

一年近くの活動で実感しましたのは行政、国交省、水機構等の住民に対しての壁の厚さでした。例えば、治水について遊水地に最近までの洪水でどれだけ水が溜まったかを示すハイエトグラフ。利水については伊賀広域水道の水需要の精査確認。環境面ではオオタカ、オオサンショウウオなどの希少類の生存は普通種の生態系の保存こそ大切であるという認識。川上ダム湖と桐ヶ丘団地の間が300メートル、満水位では団地が1メートル低い事から地質調査結果、ダム予定地周辺の活断層調査とその資料の必用性等を質問してきました。“靴の上から足を搔く”ような痒いところに手が届かないもどかしさと必要な情報が開示されない苛立ちを繰り返してきました。その際たるものは、ダム建設の根幹のひとつである水需要の精査確認が再三にわたっての要請にもかかわらず一年経った今も示されません。桐ヶ丘団地側と左岸の地質調査ボーリング地点、「柱状図」の情報公開請求が1ヶ月近く待っていますが手続きが遅れているとの理由で開示されません。

淀川水系流域委員会（淀川部会・木津川・川上ダムにかんする事業検討班）では、すでに川上ダムを水源とする予定の伊賀水道用水供給事業の水需要精査、川上ダム予定地と桐ヶ丘団地間の地質調査、川上ダム予定地周辺の活断層の調査は検討済みかどうかをお尋ねします。重ねて資料の提出を国交省や水資源機構に求め、検討をお願い致します。伊賀6市町村合併問題議論の将来予測人口、現10万人余が平成42年には8.6万人余りと右肩下がりの減少予測であり、水需要が大幅に下方修正されると考えられます。

貴委員会ご指摘のダム建設に替わるあらゆる代替案をご検討いただき、治山、治水、利水、自然環境を重視する河川整備計画の策定へご尽力お願い申し上げます。